

## 家庭教育への10(9 + 1)の提言

教育の最終的な目標は、子どもの「自立」と「共生」に集約されるのではないのでしょうか。子どもが、一人の人間としてしっかりと自立し、取り巻く他者や環境とよりよく共生できるよう、大人たちが導いていくのが教育です。

それには、大人が子どもを温かく見守り続けることです。しかし、時として、その将来を考え、厳しく向かい合わなければならないこともあります。

子どもを教育するには、家庭教育・学校教育・社会教育の三つの柱があるといわれます。なかでも、すべての教育の原点は家庭教育にあると思います。

親から子どもへの最高の贈り物は、「家族愛」で結びついた強い絆の中で、温かく時には厳しく育てることだと考え、次のことを提言します。

### 1 他の子と比べずに、認めて、褒めて、自信を

四季折々に、様々な花が咲き、人を楽しませてくれます。それぞれに美しさや固有のよさを持っています。子どもも一人ひとりに個性があり、独自のよさを持っています。認めて、褒めることで自信を持たせましょう。

### 2 「だめなことはだめ」 親としての躰と言動規範を

時代が変わっても、人として変わってはいけないもの、大人として譲ってはいけないものがあります。「子は親の鏡」、親としての日々の言動が、躰そのものとなります。親として規範となる言動を示しましょう。

### 3 「目を離さず、手を放す」の心構えを

親にしてもらった喜びよりも、自分でやれた喜びのほうがはるかに大きいものです。たとえ、時間はかかっても、温かく見守り、自分で考え判断し、行動したことには責任をとれる自立心を育てましょう。

## 4 家庭において一人ひとりに役割分担を

衣食住に関わる家事のすべてを、一部の人だけが担っていませんか。体験や経験を通じて、自分を取り巻いている暮らしを見つめさせることによって、家族であるという帰属意識を高めましょう。

## 5 コミュニケーションの取り合える時間の確保を

子どもの心は日々動いています。嬉しいときも悲しいときも、その思いを家族に伝えたいと願っています。多忙な中でも、家族が集まり、テレビやゲームを止め、語り合う時間や場を工夫してつくりましょう。

## 6 明るい挨拶が交し合える家庭を

挨拶は、人としての最低限の礼儀であり、躰の基本でもあります。家族同士が挨拶を交し合うときの声や態度から、お互いの体調や心理状態をくみとることもできます。「おはよう」から始めてみましょう。

## 7 十分な睡眠時間とバランスのとれた食生活を

睡眠と食事は、人間の命の根源です。身体の健康ばかりか心の成長にも深く関わります。健やかな身体、穏やかな心を保持するために、快適な睡眠と栄養バランスのとれた食事を心がけましょう。

## 8 自然や人と触れ合える遊びや活動の場を

集団における遊びや活動は、子どもに社会のルールや人間関係のあり方を教えます。家庭だけに閉じこもらず、地域活動に積極的に出かけ、自然や知人との輪の中で思いやる心やがまんする気持ちを育てましょう。

## 9 伝えよう、先人の知的財産である本の面白さを

子どもが自らを鍛え、その世界を広げながら、自己形成していく上で読書の効用は計り知れません。考える力、豊かな感性や情操、言葉をはじめとする幅広い知識の獲得など豊かな人間性を培うようにしましょう。

## 10 ご家庭ならではの約束事を